

生態系把握と住民参画に基く山岳諸地域の活性化に関する比較研究

川喜田 二郎

I 共同研究活動概要

山岳エコロジー・プロジェクト、安家プロジェクト等と略称しているこの共同研究の発起および魂については、本研究科年報第3号に記した。今年度は、実態把握を深める、住民との連帯を強める、この2つの目的から現地岩手県岩泉町安家にて「安家大学」なる住民との共同勉強会を実施した。

1980年3月に「安家大学」開催現地提案会。5月に現地中核メンバー事前研修。6月に7ヶ条サブテーマを現地住民と討議・決定。8月に20日間以上にわたるメイン・セッションを開き、のべ159名の参加者を得た。1981年3月に、討議内容を統合した成果の現地報告会。

現在、1981年度夏期予定の、11ヶ市町村の村づくりのリーダーによる「村づくりのカギは何か？」シンポジウムの企画を練っている。

II 主たる研究業績

1. 川喜田二郎：北上プロジェクト。FAIS NEWS, 5, 国際科学振興財団(1980・5月)。
2. 川喜田二郎：北上山地調査のプロセスと方法。KJ法研究, 3, KJ法学会(1980・5月)。
3. 川喜田二郎他：安家プロジェクト研究ノート。1, 筑波大学環境科学研究科(1980・7月)。
4. 川喜田二郎：北上山地安家地区住民の生きる姿勢とその背景。千葉徳爾編, 日本民俗風土論, 323-353, 弘文堂(1980・8月)。
5. 川喜田二郎：生態系把握と住民参画に基く山岳諸地域の活性化に関する比較研究。環境科学研究科年報, 3, 65-74, 筑波大学(1980・8月)。
6. 川喜田二郎他：安家プロジェクト研究ノート。2, 筑波大学環境科学研究科(1981・3月)。
7. 川喜田二郎, 市石博, 小林基哉, 巢山廣美：安家プロジェクト修士論文集。筑波大学環境科学研究科(1981・3月)。